

# Weekly Report



ロータリー：  
変化をもたらす

2017～2018年度  
国際ロータリーのテーマ  
ロータリー：変化をもたらす  
(ROTARY: MAKING A  
DIFFERENCE)

2017～2018年度  
名古屋瑞穂ロータリー  
クラブ会長のテーマ  
ロータリーの品格を高めよう!

創立：1980年(昭和55年)1月10日  
会長：稲葉 徹  
幹事：大嶽 達郎  
クラブ広報委員長：鈴木 健司  
例会日：毎週木曜日 PM12:30～  
会場：ビルドン名古屋

事務局：460-0008  
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F  
TEL：052-211-3803  
FAX：052-211-2623  
MAIL：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1834回例会

～青少年奉仕月間～  
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2018年5月31日(木) 雨 第42回

司会：松田浩孝会場委員  
斉唱：「日も風も星も」  
ゲスト：富士ゼロックス株GCS事業本部グループ長 金澤勝美様

### 会長挨拶

稲葉徹会長

皆さん、こんにちは。今日は、中小企業にとって事業承継の切り札になるといわれて平成30年税制改正された「自社株の相続税・贈与税の納税猶予制度」についてお話ししたいと思います。



日本の企業数は2014年総務省の経済統計によれば、約382万社であり、そのうち大会社は約1万1千社、そのほとんどが中小企業であり、その中でも小規模企業は約325万社となっています。これらの数はバブル経済崩壊により激減してきた結果であり、昨今では中小企業の経営者の約6割が60才以上の高齢者という状況により、今後10年以内に事業承継が重要かつ緊急の課題となってきております。そこで、政府は平成30年から10年間に限り、これまでの相続税・贈与税の納税猶予制度についてより使いやすい制度にしようと今回の改正となったわけです。

ポイントは大まか4つあります。  
ポイントの1つ目は、納税猶予対象株式、納税猶予額の大幅緩和です。これまで全株式の3分の2を対象に、相続税額の8割までを納税猶予としていました。これで計算しますと、相続した株式全体に係る相続税のうち、猶予されるのは53%(3分の2×80%)にとどまり、後継者の税負担が大きいので、あまりこの制度は使われませんでした。改正後は、全株式を対象に、相続税額の100%を納税猶予することになります。

2つ目は、これまでは筆頭株主のみが相続税の猶予対象でしたが、改正後は筆頭株主を含め最大3人まで猶予されることとなります。

3つ目は雇用条件です。これまでの制度では雇用を5年間、8割維持しなければならなかったが、この要件についても一定の計画の作成等があればよいという風に大幅に緩和されています。

4つ目は、税額の算出方法です。これまで、事業を引き継いだ後廃業となった場合、事業継続できないことになるので、納税猶予が切れ、相続税を納めることになり、その税額は事業承継時の株式評価額で計算することになりました。

今回の特例措置は、平成30年1月1日から平成39年12月31日までの間に贈与又は相続若しくは遺贈により取得する財産に係る贈与税又は相続税から適用されます。現行の事業承継税制については、原則的な制度として残した上で今回の特例措置が10年間の限定措置として円滑な事業承継につながると考えられています。

これまで、あまり活用されてこなかった相続税・贈与税の納税猶予制度ですが、大幅緩和され、これから活用が大きく増加することと思いますが、あくまでも納税猶予であります。但し、一定の要件を満たした場合には免除を受けることができ、円滑な事業承継につながると考えられています。

### 出席報告

星野一郎出席委員

会員65名 出席38名 (出席計算人数48名)

出席率 81.8% 5月24日は補填により89.1%

### ニコボックス

星野一郎ニコボックス委員

- 5月は家内の誕生日であり又結婚月でもあります。 岩本 成郎さん

- 5月は結婚記念日と誕生日なのですが、ハノイで私の誕生日を祝っていただいた森さん、岩田さん、松波さん、村上さん、ありがとうございました。 堀 慎治さん
- 妻の誕生日にステキなお花をありがとうございました。松波先生、我が家のネコが大変お世話になりました。家族一同心より感謝しています。 星野 一郎さん
- 5月28日付で代表取締役社長に就任しました。責任が一層重くなった感じがしますが、頑張ります。 本多 誠之さん
- 先週の5/23は結婚記念日でした。出張中で失念してました。 鳥山 政明さん
- 5/29は結婚記念日でした。 長瀬憲八郎さん
- 5月26日の妻の誕生日にきれいなお花をありがとうございました。 湯澤 勇生さん
- 先日は「なつめ」のコンペには関谷さん、湯澤信雄さん、鈴木伸一さんにご参加頂き有難うございました。私が途中で体調をくずし皆様にご迷惑とご心配をかけ申し訳有りませんでした。お蔭様で元気にしています。 野崎 洋二さん
- ベトナム・ハノイ遠征ご苦労様です。岩田修司さん、堀さん、村上さん、お疲れ様です。森裕之さん、本当に本当にありがとうございます。森さん、すげえ！ 松波 恒彦さん
- 岩田さん、松波さん、堀さん、村上さん、お疲れ様でした。 森 裕之さん
- 前回の例会から、メンバーの皆さんに大変お世話になっております。改めて、お礼申し上げます。ありがとうございます。大嶽さん、来週よろしく願います。 田中 宏さん
- 昨日は、残念ながら野球の早朝練習が中止になりました。途中まで向かってた方、スママセン。 鈴木 淑久さん
- 本日は、富士ゼロックスの地域貢献活動を紹介させて頂きます。宜しくお願いします。 安岡 克明さん
- 松波先生、岩田修司さん、堀さん、森さん、お世話になりました。森さん、大変勉強になりました。 村上 学さん

### 委員会・同好会報告

#### ゴルフ同好会：田中宏さん

6月のコンペのご案内を差し上げており、案内のところに集合時間を7:30と表記していましたが、今回スタートが8:07としていますので、それよりも30分前には受付を済ませていただいて、遅刻がないようにお集まりいただくよう宜しくお願いします。

#### 幹事報告

大嶽達郎幹事

- 次週6月7日(木)は13:40から第12回理事会をヒルトン名古屋4F「梅の間」にて行います。

#### 卓話 富士ゼロックス株GCS事業本部グループ長 金澤勝美さん

#### 富士ゼロックスの地域創生プロジェクト

皆さん、こんにちは。富士ゼロックスの金澤と申します。今日は、なぜ富士ゼロックスが地域創生を行っているかということと、そんなに大それた地域創生というよりは地域活性化のために活動している内容を紹介させていただきます。

なぜ富士ゼロックスが地域の活性化を行っているかというと、富士ゼロックスは全国で31の販社を持っており、地域に根ざして地域の方と活動することで、敢えて販売会社を置いているということが特徴です。「三方よし」の考え方で売り手よし、買い手よし、世間よしというものを目指そうと活動しています。富士ゼロックスというコピー機をイメージされると思いますが、根底にあるの

は我々のフィロソフィー「better communication」です。より良いコミュニケーションを取るためにということで、複写の事業やITCを使ったコミュニケーションがあったりなど、我々の事業のベースは全てここが基点となっています。地域とのコミュニケーションをいかに取っていくか、より良い社会をどう作っていくのかというところで、富士ゼロックスの持っている技術やノウハウを使えないかという事が今の活動に繋がっています。コミュニケーションのあり方は世の中でどんどん進化していきます。ビジネスは競争社会、競争にいかにか勝ち残っていくかが基本になると思いますが、企業が残る為にCS活動というものがあると思います。3.11の震災を機に、助け合いの精神でいこうという所謂CSVの考え方が日本国内や世界共通の考え方となりました。コミュニケーションの取り方というのも相互理解や助け合いが無いと、企業が一生懸命儲かって頑張っている世の中から認められないため、我々はそのに着目して活動を進めています。

地域創生の1つに「志プロジェクト」というものがあります。これを発足したある印刷会社の社長が「志を持ってやっていきたい」ということで、この名前が付きましました。地域の課題として学生の就職先とのミスマッチという問題が上がり、これを解決できないかということで働き掛けが始まりました。印刷会社は地元企業や大学の仕事を沢山受けていますので、自分の印刷会社の他企業との繋がりに加え、企業のパイプが非常に強い金融業界の銀行と組んで、大学の学生の就職支援ではないのですが、学生に会社訪問をさせて会社案内を作るということをしています。これは何を目的としているかというと、1つは地域人材の育成です。学生達は地元の大学に通いますが、就職は東京など他の地域に移ってしまいます。やはり地元の良い企業を知ってほしいという事と、最終的には就職してほしいという事を活動のベースに進めています。

学生は会社に訪問したことがありません。そこで、これから就職活動しようという2年生の生徒たちに、金融機関が訪問先の企業を紹介しします。学生達は、その会社に訪問して社長や社員に学生なりのインタビューをし、そこから会社・現場で何が起きているか、経営とは何かという事を学びながら会社や地元をより知っていきます。生きた経営学などを社長からダイレクトに話を聞くというのはなかなか無いことなのでいい機会となります。学生達は、インタビューで得た事を元に会社案内を作ります。学生ならではの感性が入ってくると同じ会社でも違う会社案内ができてくるのでおもしろいです。企業が活性化するための理性と感性のバランスというのは、まだ学生の時分にはあるのかなと思います。また、企業側からは、社員が自分の会社をけっこう好きだったんだということが改めて分かっただとか、仕事の中で取り組んでいる別の目線で会社をもう一度振り返ることができるという声も出ています。この学生が生の声を聞いて感性で作った会社案内は、企業を学ばない機会にも、地元をより好きになれる機会にも繋がります。この会社訪問を通して、学生達には社会人の大事なマナーも学び取ってもらえます。また、学生達はネットで見て人気の企業に就職活動をするのではなくて、地元にも視野を広げることで、地場企業の採用活動にも繋がっています。結果的には、学生と企業それぞれの元々持っていた先入観が取れていきます。例えば、今の学生はインターネットで色々な情報を知っているのでそれで凝り固まっていたり、企業は「あの大学は～」という先入観があります。それが、実際に会ってみるとそうでは無かったと、ミスマッチ解消ができます。実際に訪問先の企業に就職した学生もおり、良い方向に向かっています。また、企業としては社会的価値の向上、この会社こうだったんだという様にポジティブに目線が変わってくるとその企業の価値は上がってきます。このように直接的にも、間接的にもコミュニケーションを広げていきお互いハッピーになっていくと、このようなサイクルが起ってきます。多摩での活動をきっかけに、2015年からこの活動を続けています。丁度3年目に入りますが、14地域22大学と全国展開をしています。ここ愛知ですと、名城大学、名古屋経済大学というところで、岐阜の印刷会社コムラさんが間に立って活動をしています。名城大学からは学生も新しい視野が広がった、企業からは、若者たちはこんな考えを持っているのか、自分たちの思い込みに気付かされた、新しい目線で意見が聞けたことが会社にとって良かったというお話を聞けています。我々富士ゼロックスは事務局として活動して、今後も恐らくどんどん拡張していくと思いい、全国的に進めていきます。この活動をFacebookで公開して、志プロジェクトと検索していただくと、最新の情報がアップされています。

もう一つ活動しているのが、自治体との取り組みでして、これはもう少し規模が大きいものです。毎年、国が地方創生費用として1000億円ぐらい自治体にお金を出しています。自治体の悩みは非常に多く、我々はよりよいコミュニケーションを基点に、地域の課題に取り組んでいます。地域と自治体の構図として、向かいあっている自治体と地域住民の関係性は対峙してしまいやすいものなので、1度リセットして対話をしながら、新しい未来を作っていくというワークショップをやっています。私共の会社の中に、コミュニケーション技術研究所というところがあります。コミュニケーションはどうあるべきかということを考えている研究者がいて、その技術を使っています。ワークショップみたいなものを作ると、まずテーマを決めて、そこに対して何か意見を述べて下さいというの

がよくある流れだと思います。そうではなく最初は人脈形成から始めることが大事です。自発的にテーマが出てこないといけなないので、人脈形成にかなり時間を取っています。まず知らない人同士人脈を作る。そこから意外とテーマは出てきます。行政の持ってくるテーマと市民が思うテーマは、社会課題に紐付いていて悩みは一緒なので合致しやすいのです。でも行政からこのテーマと言われるよりは自分達でこのテーマがいいと言うと、意外とすんなり回ってきます。このようにテーマを選定して、そこからより具体的に考えていくのですが、なにか具現化したい時に富士ゼロックスでできることは限られているので、テーマに合わせて強みを発揮できる様々な企業の方に入ってもらっています。そのような企業の方に手伝ってもらい形にしていくと、これを定着化させて、更に人を呼び込んでいきます。

この活動の総本山のようなところが遠野市にありまして、2014年3.11の震災の後に中学校の廃校を利用して、遠野市と一緒に「未来作りカレッジ」というものを開いています。国内外含めて年間約5000人ぐらい来ています。大学や企業との関係から地域をどうやって活性化しようかという事を考え、産業を育成していくのかとか、遠野はやっぱり人口流出が非常に激しい区画の一つになっていますので、その解決を行政と一緒に取り組んでいます。「志プロジェクト」は有志活動として取り組んでいます。この活動は行政から予算をいただいて活動しています。やはり行政の真剣度もありますが、必要な予算を確保しないと、このような活動は継続できません。ここに市民の方にも沢山入っていただいて形にしていきます。最終的には産業を育成しようということで、市民の力や外部の力を取り込んでやっています。遠野を中心に、南足柄、神奈川、香島にもあり、テレワークセンターも立ち上げて企業の誘致や、静岡では古民家再生も行っています。香島島はもともと4つの町が一緒になっていますが、お互い地元への愛着が強く地域同士のコミュニケーションに課題があり、市長としてはこれを解決したいとの思いがありました。その解決を図るために、子供達や若者を入れてワークショップが効果的です。行政に対して声を高く上げる人も子供たちや中高校生の若者と会話すると次第に応援する側に回ってくれたりします。香島島でも、毎年ワークショップをしながら活動を広げています。この活動の拠点となるような場所としてテレワークセンターというものを昨年立ち上げました。テレワークセンターでは外からの人を呼び込もうということで活動しています。我々のメンバーも定期的に香島島へ行き、色々な大学や企業とこのような離島は何ができるか思案しています。離島は、人口減少が大きな課題で、産業育成のため今までは税金でなんとかやっていましたが、それ以外のことも考えなくてはいけないということもあり、社会的なテーマを考えながらやっています。伊豆の古民家再生では、古民家を再生するだけで終わらず、再生した古民家をいかに活用させるか、ここから事業を生みだそうということをやっています。

毎年横浜市と地元の企業がタイアップして、子供アドベンチャーというイベントをやっています。富士ゼロックスとして何ができるのか考えた時、コピー機はもともと事務とか業務用の機械ですが、視点を変えると子供の遊び道具になることに気がきました。webで簡単に自分名刺を作ろうとか、印刷技術を使ってエコバックや大きい折り紙、ランチョンマットを作ろうというイベントをしました。子供がその名刺を作ってお父さんと名刺交換をする、こんなところから楽しく名刺を使ってほしいなと思いました。お父さんと子供の対話の時間を作ろうということで、横浜市的美術館ともタイアップしました。この様なイベントがあるとお父さんも子供と一緒に時間が取れて、親子や家族の絆を繋いでいく、すごく大事なことだと思っています。このように、地域の活動に根ざして貢献をしていく、結果的にはこれらの活動が富士ゼロックスのブランド価値の向上にも繋がっています。子供が笑顔になると親も笑顔になる、このような今は忘れてしまった視点というものをもう一度考え直すと、皆さんのビジネスにも繋がるのではと思っています。今日は短い時間でしたので、以上になります。何かありましたら、安岡の方に声を掛けていただければ、地域に根ざす販売会社の梯子として皆さんのお役に立てると思いますので、宜しくお願いします。



## 例会のご案内

- 今週の卓話 6月7日(木)  
テ マ : 日本のものづくりとミラノサローネレポート  
卓 話 者 : 特定非営利活動法人  
メイドインジャパンプロジェクト理事 鶴田浩さん
- 次週の行事 6月14日(木) なごやか例会  
場 所 : ヒルトン名古屋 4階「桜の間」  
時 間 : 18:00-20:00
- 次々週行事 6月21日(木) 第5回クラブフォーラム  
(委員会報告と次年度行事予定)